



上・農地集団化ができて、見事な共同水路も完備した。

下・大規模ほ場整備の場合、大型の機械力も動員。またたく間に広い農地になられる。



上・ほ場整備計画は、綿密な土地測量からはじまる。そして実地に即した案がたてられていく。(甲佐町にて)

下・農地が集団すると、共同施設が完備される。灌がい用の水路も共同の力で設置されていく。(泗水町にて)



## 農業近代化のための足がため

下の写真のように、コマキレで、幾重にも組み合わさった田園風景を私たちはよく見かけます。このような農地分散の姿は、昔からの封建的な土地制度や、水害、かんばつ等の災害の影響もあって、現在に至っているものです。昭和35年の統計では、県下の農家一戸当りの平均団地数は7.6団地。最も多いところでは38団地もあって、一団地でさえ忙しい農業をますます「多忙の農業」に追い込んでいます。県ではすでに農地集団化による経済効果を考え、農政の重点事業として取り上げ、県計画に基づいてこの事業を大きく推進しています。



下・整然と区画された畑地帯の中を、用水路が動脈のように走る。(玉名市にて)

